

第1回 奈良市八条・大安寺周辺地区まちづくり懇話会の意見の概要	
開催日時	令和元年10月7日（月） 午前10時から12時まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第21会議室
意見等を求める内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・八条・大安寺周辺地区まちづくり基本構想を踏まえた計画策定に関すること。 ・計画策定のパブリックコメントに関すること。 ・その他まちづくりについて必要な取組の検討に関すること。
参加者	出席者14人 ・ 事務局7人
開催形態	公開（傍聴人2人）
担当課	都市整備部 都市政策課
意見等の内容の取り纏め	
<p>事務局による概要説明の後、出席者に意見等を求めた。</p> <p>《意見の概要》</p> <p>【AIタウン特別検討会の概要について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIタウンの議論が、まちの構造等に大きく影響する可能性もあるため丁寧に議論いただきたい。 ・八条・大安寺周辺地区では歴史・文化の重要性は他のスマートシティと違うため、良いところをうまく活かして進めたい。 <p>【八条・大安寺周辺地区のまちづくり経緯・現状・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画対象地区の範囲はどこまでか。 <ul style="list-style-type: none"> →（事務局）計画対象地区は資料の赤枠内※1である。 <p style="margin-left: 2em;">※1 西は国道24号線、南は岩井川・能登川、東はJR万葉まほろば線（桜井線）、北は都市計画道路三条菅原線及び大森高畑線に囲まれた区域</p> ・土地利用別の導入方針は、基本的には民間活力を導入する方向か。 <ul style="list-style-type: none"> →（事務局）民間活用を基本としているが、現時点では決定したものではない。手法については並行して検討する。 ・まちづくり構想を作っても曖昧な部分が残ると住民は非常に困るため、はっきりさせること。 ・教育委員会で検討している大安寺旧境内の保存活用計画は、非常に重要なまちづくりのキーの一つになってくる。本懇話会に情報共有し、まちづくりの議論の中にも活かすこと。 ・（仮称）奈良インターチェンジ周辺まちづくり計画基本構想（以下奈良IC基本構想）と、八条・大安寺周辺地区まちづくり基本構想との区別をはっきりさせ、奈良IC基本構想策定時の議論とともに整理し、本懇話会で議論する基本計画の位置付けをクリアに示すこと。 	

- ・議論を進めていく上で、どこまでが前提条件で、どこからが今回考えるべきポイントなのか示すこと。
- ・なぜ八条・大安寺地区という名称になったのか。本来は大安寺・大安寺西地区とすべきではないか。
→（事務局）地区設定の経緯を調べて報告する。
- ・基本構想の課題を実現に向けて、この会議で議論していくのか。
→（事務局）基本構想を実現させるための、実際的な事業の取り組みを議論していく。
- ・当初予定では高架工事やまちづくりを令和6年に完成予定と聞いている。今のペースでは逆算するとかなり遅い。
→（事務局）新駅、インターチェンジの開通を目途にこの取り組みを進めていきたい。
- ・物理的に期限があるものから逆算して早めに議論ができるよう配慮し、工程整理をしっかりとすること。
- ・AIタウンは、特に駅の東側を対象としているが、なぜ東側の駅前エリアに限られているのか。
→（事務局）東側ベースで考え、必要に応じて西側も検討する。
- ・路線バスの再編となると大規模になり、この地域だけでは済まない問題になる。
→（事務局）議論を進めながら、今後個別に交通事業者と話しをしたい。
- ・JR奈良駅と新駅の乗降客のボリューム、比率等は把握しているか。
→（事務局）把握していないため、次回懇話会までに把握する。
- ・将来観光周遊のイメージが、JR奈良駅を通らない絵になっているが、あえてこうする方が良いということか。
→（事務局）バスをメインに観光周遊を考えたイメージであり、駅間利用というよりは観光拠点の周遊と考え採用している。
- ・交通需要予測は与条件として決まっていれば示すこと。
- ・歴史・文化、自然的資源等の活用がされていない中で、大安寺をどう活用していくのか検討課題として出てくると思う。活用の意味が観光活用として、人さえ来れば良いというのは問題がある。地域の方にとって癒しや安らぎの場という精神的なエリアとして活用され、子供連れや様々な人が訪れることが出来るエリアとしても考えていく必要がある。
- ・歴史的な意味で「道」ということが非常に大事だ。六条大路や新駅周辺から大安寺までのアクセスをどうするのか今問題となっている。
- ・昔の条間路に合わせて、まちづくりの形成をすれば、歴史・文化の活用が見えてくるのではないか。
- ・文化財保護法の改正で活用の話しが出ているが、いろいろな所で問題が起きている。過度な活用に偏り文化的価値や精神活動の部分が失われないようにしなければいけない。
- ・世界や日本全国の大きな視点を置き、発掘出来ていない、外部に発信しきれていない様々な奈良の魅力を掘り起こすような形の基本計画としたい。

【フリーディスカッション】

- ・世界での奈良のイメージは鹿だ。春日大社、奈良公園、その次に大仏だ。鹿と大仏では相当差がある。
- ・特にアジアの方は鹿で、欧米系の方は歴史的な興味が上がってくる。
- ・アジアの方にとっては奈良に鑑真さんや菩提僊那が来ていた等、アジアの歴史的な人物と奈良を繋げるイメージが出てくれば思う。
- ・奈良時代に奈良は世界の文化を取り入れた最先端のまちであった。京都や東京にはない仏像、文化がそのまま封印されて残っている。文化的価値や学問的価値にひも付いている産業やお酒等が隠れているまちであると思う。発信出来ていないため知られていないと思う。
- ・古墳の時代から世界である意味、最先端を走りながら他の文化を柔軟に取り入れながら発展してきたのは、奈良を含むこの地域の大きな、世界的に見ても他に類のない特徴的なポイントだと思う。
- ・外から見ると奈良には産業があまりない。その昔は非常に革新的で先端的であり、工芸的にも優れた文化があった。長く守りながら、少しずつ改良を加え時間をかけて今あるということだが、これからは新しいイノベーティブな、革新的な産業がないと持続可能な都市にならないと思う。良いものを掘り起こし、新しい技術と組み合わせで新しい発信をすることも、これからの奈良には非常に必要ではないかと思う。単にこのままいくということではなく、変わる場所は新しい技術で変わっていかなければならないと思う。
- ・日本人にとって奈良はお寺と神社のイメージだ。
- ・京都は文化財が密集市街地にぎゅうぎゅうにある形だが、奈良は少し広々とした中に文化財がある。
- ・奈良は食べ物、名物がなく、買い物をしようとしても、お金を使うところがないイメージだ。
- ・外国人観光客からは京都は目的で行き、奈良は立ち寄り、大阪に泊まりおいしご飯を食べると聞く。奈良は日帰り県になると思われている。
- ・若い方にとって神戸はおしゃれなまちで、奈良は何もない田舎だというイメージだ。
- ・関西での奈良のプラスイメージが出てこないため、ここをプラスに転化していくことを目的に議論を深めていきたい。
- ・「奈良市八条・大安寺・大安寺西周辺地区まちづくり懇話会」というような名称で、西地区も入れていただきたい。